

第1回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和2年12月23日(水) 午後3時から午後4時30分
- 2 開催場所 胎内市産業文化会館 会議室
- 3 議題 (1) 胎内市立小中学校の現状とこれからの小中学校の在り方(想定される選択肢・その想定されるメリットとデメリット)について
(2) 情報交換
- 4 公開・非公開の区分 公開
- 5 出席者
委員長 桐生 和文
副委員長 小野 正敏
委員 橋本 定男
委員 須貝 欽也
委員 河内 理助
委員 小林 勲
委員 渡邊 俊一
委員 近 真由美
委員 渡邊 英実
委員 花野 真也
委員 花野 純恵
委員 岡松 綾
委員 野尻 宰子
委員 佐藤 志桜
委員 中村 祐一
委員 齋藤 重雄

教育長 中澤 毅
学校教育課長 佐久間伸一
管理指導主事 松原 利弘
指導主事 池田 裕之
庶務係長 須貝 彰
庶務係主事 三宅 亨

6 会議資料の名称

- 資料1 胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会条例
- 資料2 委員名簿
- 資料3 諮問書の写し
- 資料4 胎内市中学校区別 児童生徒数及びクラス数推移（実績及び見込み）
- 資料5 想定される選択肢及び規模、メリット、デメリット
- 資料6 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
- 資料7 小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引

7 傍聴人の数 1人

8 会議の概要（要旨）

(1) 開会

○ 学校教育課長

本日はご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

本検討委員会の会議は、胎内市附属機関等の会議の公開等に関する基準に基づき、原則として公開することとしております。

ただ今から、「第1回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会」を開催します。

委員会条例第6条第2項の規定により、本日、出席者が過半数を超えておりますので、会議は成立しますことをご報告申し上げます。

それでは開会にあたり、胎内市教育委員会 教育長 中澤毅が挨拶申し上げます。

(2) 教育長あいさつ

○ 教育長

こんにちは。本日は年の瀬のお忙しい中、ご参集いただきましたことに心より感謝申し上げます。

全国の大半の市町村において大きな課題となっている、児童生徒の減少などによる学校の在り方について、胎内市でも十分な検討を行い、今後の方向性を示していかなければならない時期にきております。

その方向性を胎内市が示すに当たって、いろいろな角度や視点からご意見をいただきたいと皆さんからお集まりいただきました。

市内5小学校においては、旧村など一定の単位での統合を終えたこと、校舎施設等が今後しばらくは維持できること、老朽化対策に急を要する中条小

学校の改修の目途が立ちつつあることなどから、現状維持の方向で考えさせていただきたいと思います。市内4中学校においては、中条中学校を除く3中学校が、今後学年ほぼ1学級は維持できるものの、現在1学級20~30人の生徒数はさらに減少していくことや、各校とも耐震工事等は終わっているものの老朽化対策の必要性などの課題があることから、今回特に中学校の今後の方向性を見定める時期に来ていると考えています。

そこで、この検討委員会の今後の方向としては、まず胎内市の小中学校の適正規模、あるいは適正配置等の検討をしていただいて、それを基にして、特に中学校の在り方のいくつかの選択肢について、胎内市の子どもたちにとってのメリットとデメリット、そしてその課題解決の方策などをご検討していただくことで進めてはどうかと考えております。これについても、ご意見があればいただきたいと思います。

各地域の実情など異なるところもあると思いますが、胎内市の子どもたちにとってより良い学校の在り方は何かを一緒に考えていただければ幸いです。

どうか忌憚のないご意見をいただけますよう皆様どうぞよろしくお願い致します。

(3) 委嘱状の交付

○ 学校教育課長

教育長から委員の皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しすべきところですが、時間の都合上、代表して「橋本定男様」に教育長から委嘱状をお受け取りいただきたいと存じます。

<委嘱状交付>

(4) 自己紹介

○ 学校教育課長

続きまして、委員の皆様をご紹介しますが、自己紹介をお願いします。

<自己紹介>

(5) 正副委員長の選任

○ 学校教育課長

委員会条例第5条第1項の規定に基づき、本委員会には、委員長及び副委員長を置くこととし、委員の互選により定めることとなっております。正副委員長の選出をお願いしたいと存じます。

○ 委員

事務局案はありますか。

○ 学校教育課長

事務局から提案させていただいて、よろしいでしょうか。

<「異議なし」の声>

○ 学校教育課長

事務局から、委員長に桐生和文委員、副委員長に小野正敏委員を提案します。ご承認いただける方は拍手をお願いします。

<拍手多数>

○ 学校教育課長

拍手多数と認めますので、委員長には桐生和文委員、副委員長には小野正敏委員に決定しました。

<正副委員長席へ移動>

(6) 諮問

○ 学校教育課長

中澤教育長から委員長へ諮問書をお渡しします。

<教育長から委員長へ諮問書を渡す>

○ 学校教育課長

委員の皆様は、お手元の「諮問書の写し」にて内容のご確認をお願いしま

す。

ここからは、委員会条例第6条第1項の規定により、桐生委員長に議長をお願いします。

(7) 協議事項

○ 議長

それでは、ただ今の諮問を踏まえ、これより会議の議事進行をさせていただきます。皆様のご協力をお願いします。

議題の協議事項1になりますが、胎内市立小中学校の現状とこれからの小中学校の在り方(想定される選択肢・その想定されるメリットとデメリット)について、事務局より説明をお願いします。

○ 管理指導主事

これから、ご検討いただくための情報提供をさせていただきます。

本日の検討会ですが、まず、市内小中学校の現状について情報提供し、その後に、学校の在り方として、想定される選択肢と、それらの想定されるメリット・デメリットをご説明します。その後に、情報交換として、委員の皆様より、ご質問やご意見をお聞きします。なお、ご質問につきましては、即答できる場合以外は、可能な限り次回の検討会でお答えするようにします。ご意見につきましては、論点を整理し、次回の検討会の内容とさせていただきます。

〈「説明」：資料4・資料5参照〉

なお、資料4 グラフの中のクラス数は、基準に従って算出した通常学級の数を示しています。特別支援学級の数は含まれていません。

○ 議長

委員の皆様から忌憚のないご意見、あるいはご質問を踏まえて議論を深めてまいりたいと思います。ご発言のある方、よろしくをお願いします。

○ 委員

進学先で胎内市以外の学校を選ぶ子どもが近年どのくらい程度いるのか。また、部活動が無いために学区外通学するような子どもたちが近年どのくらいいるのか。その数も、かなりの数に上れば、児童生徒数の数値がちょっと

変わってくると思います。

○ 議 長

事務局いかがでしょうか。

○ 学校教育課長

正式な数については次回お伝えさせていただきたいと思いますが、市外の中学校に進学する人数については、おおむね10人程度ということでご理解いただければと思います。

また、部活動が進学する中学校になくて学区外のほかの中学校に進む生徒については、だいたい4人から8人ぐらいの数で近年推移していると認識しております。

○ 議 長

いただいたご意見等を踏まえて、論点を整理しながら、次回の検討委員会へ続けていきたいと思っておりますので、ぜひお一人お一人からお話をいただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○ 委 員

教職員の数というのが、統合前と統合後でかなりの人数が変わってくるという話でしたが、この数までしか置けないという人数が決められているのでしょうか。

通う中学校によって、できる部活動のある、ないの差が出るのは、同じ胎内市に住んでいて、非常に悲しいことだと思います。胎内市に生まれたのであれば、同じような教育、同じようなスポーツということで、できる環境を今後整える必要があると考えます。

○ 議 長

教職員の質問についてお答えください

○ 管理指導主事

教職員の定数は学級数に応じて決まっております。その基準に従って算出した数が、先ほど示した人数です。

○ 議 長

一つ一つの検討は今回しませんが、整理をして、次回の検討材料にさせていただきたいと思いますので、これはどうかというような思いをどんどん出していただければ有難いと思いますが、いかがでしょうか。

○ 委 員

新聞で話題になっていますが、小学校で1クラス40人、低学年は例外もありますが、今度1クラス35人になります。先生がいるということがどれほど大事かです。統合になると、その分先生は減ります。先生の給料は国と県が出します。したがって胎内市は先生がいっぱいいる現状でも市の財政には全然関係ないので、有難い訳です。つまり子どもの減少の数と先生の数という、これが大きな論点だと思います。

先生を減らしていいのか、今、子どもが少なくなることで、切磋琢磨や教育活動の質で、問題があるかもしれないが、今の先生の数で今の胎内市の教育は守られています。先生が減ってもいいかという、これは私たちが考えるときの大事な視点になると思います。

部活動ですが、これは今大きな見直しがされておりまして、10年後、今の部活動のままかどうかは疑問です。つまり今、部活動は学校から離れて、地域の受け皿で行う仕組みへと世の中が動きつつあります。今、見直しがされている中で、部活動を大きな基準にして、学校の適正規模を考えていくのはどうかと私は思います。

ここで質問ですが、地域の団体やスポーツ関係者による部活動の受け皿というのは、胎内市はどのような状況なのでしょう。

○ 学校教育課長

現在、昨年設置した「胎内市立中学校の部活動の在り方検討委員会」からの提言を受けて、地域の受け皿、部活動への人材派遣といった面から、胎内市の関係団体と話し合いを重ね、実現に向けて一歩踏み出したところでもあります。しかし、今のところは地域の団体やスポーツ関係者と連携している部活動がいくつかあるという状況です。

○ 議 長

今、委員の皆様の方から、部活動、教職員数、市外への進学も踏まえる必要があるのではないかと、それらを見通した形の中で適正規模等を検討していく必要があるのではないかと意見が出てきましたが、そのほかに何かありますか。

○ 委 員

教職員の数が減ることというのは子どもたちの教育に対して、ものすごく影響力が大きいとは思いますが、ここにいらっしゃる先生方にお聞きしたいが、先生方にとって1クラス何人くらいだったらいいと思いますか。

○ 議 長

先生の委員の方、どちらからでも。

○ 委 員

小学校も中学校も経験していますが、1学年に複数のクラスがあることにメリットがあると思います。1クラスの人数は少ないのに越したことはないと思いますが、児童生徒数が少なくなれば当然、1学年、複数のクラスでなくなるということです。

○ 委 員

1学年、3クラスから4クラスというのが一番適正なのではないかと感じることがあります。

例えば、学級編成替えはとても大事だと思っていますが、3から4クラスですと、選択肢は3つ、4つあるわけですので、いったんリセットして新たな人間関係を築こうというようなメリットがあります。もう一つの例として体育祭があります。各学年すべて3クラスですと、それぞれの軍団をつくって、それこそ切磋琢磨して、子どもたちが互いに競い合うということが出来ます。

○ 議 長

そのほかいかがでしょうか。

○ 委 員

今後の検討の中で、これからの胎内市を担っていくのは子どもたちですので、子どもたちがどのようなことを思っているのか、大人の意見だけでなく、アンケートでもいいですので、生の声も聴かせてもらえたら、有難いと思います。

○ 議 長

ありがとうございます。大切な視点だと思います。

○ 委 員

適正規模を考えるうえで、学級数を考えるときに、一クラス何人までという限定があつて、学級数が何クラスあればいいかと考えがちになりますが、人数が切磋琢磨するほどには足りない、そういう現状があつたとしても交流、ほかの学校と一緒に becoming 様々な活動するという、もう一つの手がありまして、そこも大事にしないとイケないと思います。クラスを何クラスにするということに頭がいかけてしまうと、そこが見えなくなつてしまいます。切磋琢磨や質の高い集団活動は、工夫により可能だということを言いたいと思ひました。

ここに地区の代表者の方もいらつしやるので、学校があるというのは、あるいは学校がなくなるというのは地域の皆さんにとってどんなことなのか、意見をお聞きできればと思ひます。

○ 議 長

地域の代表として各地区代表の区長さんに委員として入つていただいておりますが、地域に学校があるということ、あるいは今まで学校があつたけれども無くなつてこうだつたなど、そんなことを思ひ浮かべながらお話しただけであれば有難いですが、いかがでしょうか。

○ 委 員

私の地区でも小学校が無くなりましたが、そのときはやはり一つ集落で一つの学校でしたので、何年かは子どもの声も聞こえない、地域住民もそのように感じていました。

しかし、部活の問題がありますが、先日集落でバレーボール部を2年間一所懸命やつてきたが、今度入部する人がいなく無くなるという寂しい話を聞いてきました。やはり気の毒に思ふので、何とかならないものか考えていただきたいと思ひています。

○ 委 員

私の地区の中学校でも野球部の部員が少なくて存続できるかどうかという話は聞こえてきます。非常にさみしい思ひをしておりました。しかし、地域から中学校が無くなることは、考えたこともありませんでした。

○ 委 員

子どもの数が本当に少なくなって、競争心などがだんだん減ってきていると思います。そのようなことから統合も考えなければならないかと思っています。

○ 委 員

私の地区でも小学校が統合したわけですが、地域の皆さんに理解してもらってできたものと思います。

中学校に関しては、年々生徒数が減っています。統合して大きい学校に行ってもいいじゃないかという話も出ています。

問題は通学距離が長くなることですが、今、小学校では遠いところはバス通学ですので、中学校でもバス通学にすればいいのでないか、そういう話は出ています。

○ 議 長

予定した時間になりましたので、以上で情報交換は終了したいと思います。

今日いただいたいろいろなご意見を整理して次回の検討委員会につなげていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

先ほど子どもたちにアンケートというふうな意見がありましたが、そのほか委員の皆様からこんな資料も出してもらおうと検討の材料として助かるというのが、もしございましたら。

○ 委 員

中学校4校が統合するとなったときに、例えば中条中学校で全部収まるのかどうか、教室があるのかどうかの確認と、中条は中条、ほかの3校が統合となったときに、この場所だったらいいのではないかという案があるのかどうか。

○ 議 長

次回の課題にしましょうか。

○ 教育長

今後検討していくうえで、必要な資料等があれば出していきたいと思えます。ご了解いただければ有難いと思います。

○ 議 長

ほかにこんな資料等があったらいいなというのがありましたら。

<発言なし>

○ 議 長

ないようですので、次に「その他」ですが、事務局から何かありますか。

○ 学校教育課長

本検討委員会については、概ね1カ月半から2カ月の間に1回の頻度で開催したいと考えておりました、次回、第2回目を来年の2月に予定したいと考えております。本日いただいたご意見を踏まえて、後日、日時とあわせて議題等についてもご連絡を各委員の皆様差し上げたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○ 議 長

そのほかございますか。

<発言なし>

(8) 閉会

○ 議 長

ほかにないようであれば、これで終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

お疲れ様でした。